

# 週休2日の運用見直しを 雨天時休日の扱いなど議論

## 群馬建協と県が意見交換総括



群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県は5日、前橋市の群馬建設会館で、建協各支部と県が6、7月に開催した意見交換会を総括する会合を開いた。写真。各支部からは、公共事業予

算の安定的確保のほか、週休2日の運用見直し、資材高騰対応などを求める声が強かった。

青柳会長は「時間外労働の罰則付き上限規制の適用まで残り4カ月を切り、協会として働き方改革の具体的な提案に向けていくつかの仕掛けを考えている。回答を踏まえ、各支部が行政と一体となった情報共有ができればと思っている」と話した。山本一太知事は「群馬建協は全国から注目されており、新しい時代の流れを踏まえ、最先端のさまざまな動きを起し、感銘を受けている。本日の意見を県政に反映していきたい」と応じた。

眞庭宣幸県土整備部長は意見交換会を踏まえた回答書を青柳会長に手渡した上で「引き続き協会と協力し、建設産業の魅力

向上と健全な発展に向けてさまざまな取り組みを提案したい」と述べた。

総括意見交換会で、県は補正予算などを活用して公共事業予算を安定的に確保することなどを説明した。協会からは、時間外労働の罰則付き上限規制の適用を控え、週休2日制や、施工時期の平準化、書類簡素化についての意見が多かった。

週休2日について協会からは、国の雨天時の現場閉所を休日を含める取り組みを、県でも運用を求める声があり、県は「近年のゲリラ豪雨などにより、雨天で作業できないことも増えている。運用状況を把握した上で、検討したい」と答えた。県は施工時期の平準化や、生産性向上に向けたICT施工の工種拡大、資材高騰に対応したスラ

イド条項や設計変更も引き続き進めるとした上で、協会が提案する「書類作成工期」の是非についても検討するとした。

### 働き方の構造

### 改革示すべき

青柳会長

総括意見交換会を終えて青柳会長は、「人口減少や、新型コロナウイルスの影響などによる出生率低下で、労働力が落ちている。働き方の構造改革を示すべき」と語った。「正月明けにも、女性の復職などの働き方、育休取得、1日の労働時間などについての協会アンケート結果を、企業側からのメッセージとして発信したい。働き方改革に向けて、業界内部の声を出すことは大事だ」と強調した。

# 休日算定見直しで一致

## 群馬建協、県と意見交換

## 降雨での作業中止踏まえ課題整理

会合は山本知事が冒頭にあいさつした



群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県は5日、前橋市の群馬建設会館で意見交換し、工事現場の週休

2日制の運用について、雨天の休日算定の見直しを検討する方針で一致した。県は降雨などで作業できない日が増えていることで、工期設定の課題整理に取り組み考えも表明した。青柳会長は時間外労働の罰則付き上限規制の適用に備え、働き方の公約を2024年の初めに表明する考えを示した。

県は工事現場の週休2日を促す取り組みの中で、降雨で作業できない日を休日として算定する措置を講じていない。休日算定に関しては、若い担い手の確保といった取り組みの目的とともに、降雨の作業中止がないう他産業の状況などを踏まえ、在り方を検討する考え。工期設定は「ゲリラ豪雨や雨の降り方が変わったこと

で、（工期を）延ばさない」と難しくなることもある」（県土整備部）として課題を整理するという。生産性向上のためのICT施工の拡大、資材価格の適切な反映にも意欲を見せた。

意見交換は6、7月に群馬建協各支部と県が行った意見交換を総括する場として設け、要望に対する回答を県が発表した。群馬建協の各支部は、公共事業予算の安定的な確保や現場の週休2日の運用などを議題にしてきた。週休2日は、時間外労働の罰則付き上限規制が24年4月から適用になることで、事務作業のための書類作成工期の設定などを求めている。

会合には山本一太群馬県知事らが参加した。冒頭、山本知事は災害対応や防疫業務などへの協力に謝意を示した上で「東京が人材を囲ってくる。群馬の人材をどう確保するかよく相談したい」と話した。

会合後、青柳会長は知事の参加に感謝し「有意義な会議だった」と感想を述べた。上限規制の適用が迫り、「業界側から構造改革を示さないといけない。適正工期（の議論）をしっかりとやる必要がある」とも指摘した。働き方の公約については、女性の復職、男性の育児休暇取得の推進、外国の高度人材の活用などを検討する考えを明らかにした。

群建協

# 課題解決へ向け協議

## 総括意見交換会を開催



青柳会長

山本知事

県土整備部と群馬県建設業協会(青柳剛会長)は5日、総括意見交換会を開催した。6月から7月にかけて県内12支部で行われた意見交換で出された、公共事業予算の継続的な確保や働き方改革などの要望に対する回答

書が眞庭宣幸県土整備部長から手渡された。

冒頭、青柳会長は「本

年度の協会活動は、来年度からはじまる時間外労働の上限規制を見据えた働き方改革に的を絞ったものになっている。本年度も残り4カ月を切ったところで、協会としてできそうな働き方改革の具体的な提案に向けて、いくつかの施策を考えている」と話すとともに「本日

の総括意見交換は、地域の課題を整理した上で回答を頂いている。その回答を踏まえて、行政と一体となった対応ができ

るきっかけとなることを願っている」とあいさつした。

続いて山本知事は「日ごろから県民生活の安全・安心の守り手として最前線で働いていただいていることに感謝したい」とし、続けて「建設業において、担い手をどう確保・育成していくのかというのが課題となっている。あらゆる業界で人手不足となる中で、群馬県の人材をどのように確保していくのかが重要。そのために、皆さまと連携して建設業界を支援する方法をしっかりと

考えていきたい」と話した。

意見交換では、公共事業予算について当初予算と県の財政に有利な補正予算の活用を引き続き進めていく姿勢を示した。また、来年度にせまる時間外労働の上限規制に関して、週休2日制の運用や施工時期の平準化、書類の簡素化などが要望として出された。特に週休2日制について、雨天時の振替休日の運用に対して国などの状況を把握



率直に意見を交わした

した上で検討を行うとした。このほか、ICT施工の工種拡大や資材高騰、書類作成工期などについて積極的に意見を交わした。